

「ぐんまの風景を魅せるインフラ整備」の取組概要について

1. 「ぐんまの風景を魅せるインフラ整備」の目的

「ぐんまの風景を魅せるインフラ整備」は、道路を走りながら、ぐんまの山々や街なみなど周囲の風景を魅せることや、「人々が歩きたくなる道路」や「触れたくなる河川空間」をつくることです。
この事業の目的は、地域の魅力を高め、「もっと住みたくなる・もっと訪れたくなる・もっと自慢したくなる」群馬県をつくることです。

2. 事業の進め方

1) チェックリストの活用

「ぐんまの風景を魅せるインフラ」を整備するために必要な視点や項目をわかりやすく示した「ぐんまの風景を魅せるインフラ整備」チェックシートを活用し、設計から施工、完成まで一貫した考え方で行えるよう以下の観点に留意しながら事業を進めます。

- ① 現場の地形や風景の特徴を把握する
- ② どこから何を見せるのかを考える（視点場を決める）
- ③ 何に配慮して設計を進めたらよいかを考える
- ④ 設計時の考え方を施工にも必ず反映させる

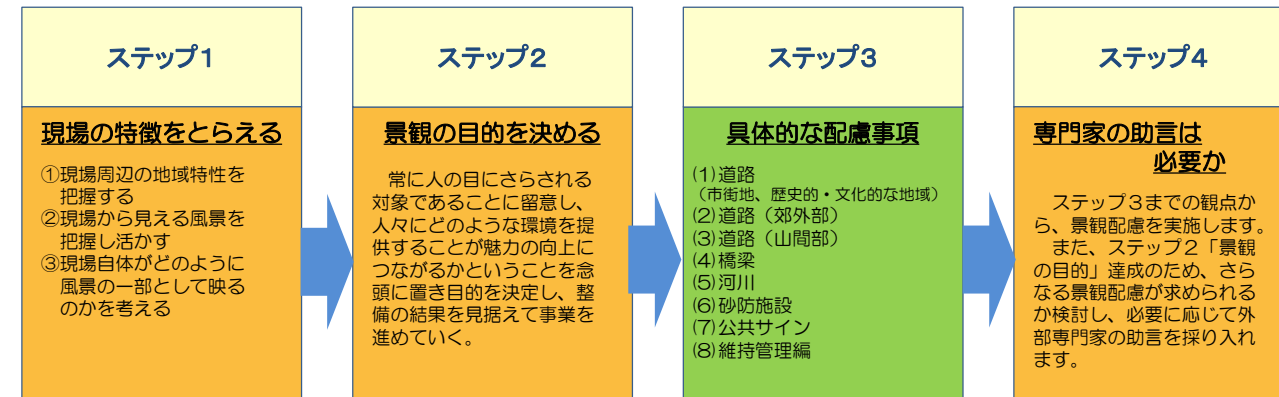
（担当が代わっても、当初の設計と異なる質の仕様のものをつくらないように！）



チェックシートにつきましては、ホームページ「群馬県 県土整備部 基準通知システム」でご確認頂けます。

2) 4つのステップ

「ぐんまの風景を魅せるインフラ整備」は、個人のスキルに依存することなく、品質の向上・安定を図るため、手順を以下の4つのステップに整理し、景観に配慮した整備を進めます。



3) 個別事例調書の作成

個別事例調書は、関係者への情報共有を図ると共に、県民の皆様に、本取組を分かりやすく伝えるための情報として作成するものです。
事業箇所ごとに、事業概要やステップ1～4の取組などを、写真や図面などを活用してまとめています。
完成した事業の個別事例調書はホームページでの公表を予定しています。



ステップ3(具体的な配慮事項について)

(1) 道路（市街地、歴史的・文化的な地域）

◆ 歩きたくなる道路を創る！（にぎわいの創出が必要な市街地） ※すべての市街地にあてはまるものではない

- 来訪者が楽しめるよう「おもてなし」を表現する
まちなかの評価は、道60%、建物40%
→道路の整備はまちなかの魅力に直結する。
（人は自分の近いところを遠いところよりも過大に評価する！）
- 人が楽しめる道路空間を創出する。
- 周辺の風景を壊さない。
- 照明をつまく使う。
- 休憩スペース（ベンチ等）をつくる。

(2) 道路（郊外部）

◆ 道路から周囲の風景（きれいな山並み、田園風景、市街地）を魅せる（見せる）！

- 車を運転または同乗していて、風景が見えにくくなるものを取り除く
- 電柱を立てない。電線を横断させない。
- 植樹（中木、高木）をしない。
- 透過性の高い防護柵（ガードパイプなど）を使う。
- 防護柵や標識柱等の色を目立たせない。
- 屋外広告物の規制誘導を検討する。

(3) 道路（山間部）

◆ 道路から周囲の風景（山々、市街地等）を魅せる（見せる）！

- 車を運転または同乗していて、風景が見えにくくなるものを取り除く
- 電柱を立てない。電線を横断させない。
- 植樹（中木、高木）をしない。
- 透過性の高い防護柵（ガードパイプなど）を使う。
- 防護柵や標識柱等の色を目立たせない。
- 法面はできるだけつらない。法面の表情をやわらげる。
- ビューポイント（眺望点）をつくる。
- 屋外広告物の規制誘導を検討する。

(4) 橋梁

◆ 橋梁から周囲の風景（山並み、河川、湖等）を魅せる（見せる）！
◆ 橋梁自体を眺められる対象として魅せる（見せる）！

- 運転して渡りたくなる、歩きたくなる橋梁をつくる
- 多様な視点（橋から見る視点、橋を見る人からの視点など）から検討する。
- 防護柵は周辺の風景と調和した色彩、デザインとする。
- 市街地の橋梁は、過度に凝ったものとしなない。
- 山間部、丘陵部の橋梁は、周辺の自然環境に溶け込むような色彩、デザインとする。
- 伝統ある橋梁は、歴史的背景や地元意見を踏まえたデザインとする。

(5) 河川

◆ 川に降りたくなる、触れたくなる河川空間を創る！

- 多自然川づくりを進める
- 河川の「視点場」は川に架かる橋や管理用通路である上から見られることを意識する
- 護岸は、周囲と調和した明度、彩度、テクスチャーを有するよう配慮する。
- 護岸天端は、上から見られることを意識して周辺景観と調和するように表面の仕上がり工夫する。
- 川に降りられるところをつくる。

(6) 砂防施設

◆ 周辺の環境と調和させる！

- 砂防施設を目立たせない
- 急傾斜地崩壊防止施設は、その機能を損なわないことを第一に、可能な限り周辺の景観や植生と調和させる。
- 砂防堰堤は、周囲の環境に溶け込むような工法、材料とする。

(7) 公共サイン

◆ 公共サインのデザインは周辺景観になじませることを原則とする！

- 周辺環境と同調しながらも、アイキャッチとなるような存在にする
- 情報の表示方法、色彩、形状、素材等に統一性を持たせてサイン群としてわかりやすく表現する。
- サインの共架・集合化を検討する。
- たくさんの情報を盛り込まず、情報のヒエラルキーを明確にして、シンプルな表示で視認性を高める。
- 県産木材を活用する。

(8) 維持管理編

◆ 部材の経年変化に注意し周辺景観との調和を維持する！
◆ 整備された当初の目的を踏まえて補修する！

- 当初の目的を踏まえて、容易な補修工法としない
- 必ずしも当時使用した部材や色彩による修繕でなくてもよい現場周辺環境と違和感なく同調させることが大切
- 【舗装】周囲の素材の経年変化に合わせた色彩を採用する。
- 【防護柵等】色彩、形状、素材等に統一性を持たせる。
- 【街路樹】過度な剪定は行わない。
- 【河川堆積物除去】瀬や淵、みお筋を保全する。
- 【木製構造物】原則、木製構造物で補修する。
- 【除草・伐木】本来の機能や景観を確保する。